

御禊行幸裏書

寛和、皇后同興、又有女御代、仍尋舊例、貞觀元慶、皇后不御、又無女御代、河原指圖無其幕所也、天祿、皇后不御、女御代供奉、今案、皇后同興時、又不可有女御代、然而承平、皇后同興、又尙侍供奉、寛和依此例也、

〔江家次第十四〕賤祿上大嘗會御禊皇后同興儀

早旦御沐浴略○申次女御代車列立郁芳門外北掖以上南爲之次皇后出車立其南上同女御代參入之後、有行

業、

○按ズルニ、女御代ハ大嘗會御禊ノ女御ヨリ起レリ、上ニ舉ダタル貞觀儀式ニ就キテ見ルベシ、後ニ幼帝ノ御禊ニ女御代ヲ置キシガ、又其後ニハ女御代ハ、終ニ御禊定置ノ職ト爲リテ、成人ノ天皇ニモコレアリ、且女御代タル人ハ、御禊ノ後ニ眞ノ女御タル者モ多カレド、女御タラザル者モ亦少カラズ、

〔大嘗會御禊事〕朱雀

承平二年十月二十五日癸酉、女御代御匣殿別當命婦左大臣忠平女、歟

〔葵花物語

十三 様々の悦

〕かくて十月二年寛和になりねれば、御禊大嘗會とて世の、亥りたり、みかど一○

條な、つにおはしませば、御こしにはみや母子證子もろともにたてまつるべければ、みやのおほんかたの女ばうな也さま也いみじうの、亥りたり、女御代の御ことなをすべて、よのいみ亥き大事なり、

○按ズルニ、此女御代ハ詳ナラズ、大嘗會御禊事、一條天皇ノ條ニ、女御代尙侍綏子歟攝政兼ト疑ヘリ、

〔葵花物語

十二 玉の村薦

長和五年正月十九日御讓位略○申二月九日御卽位なり、みかど一條は九にならせ給略○申御禊になりぬれば、いみじうつねにもわかつ略○申女御代には、高松殿の姫君○藤原道長女